

4 ベール『歴史・批判事典』全4巻 ロッテルダム 1697年

ベールは、17世紀フランスのプロテスタント系哲学者。本書は、古今東西の宗教家、哲学者、文学者、本書は、科学者らを取り上げた本文と、その脚注から構成されている。モレリの『歴史大辞典』(1674年)のような、当時既に時代にそぐわないと見なされていた伝説化や迷信の記述を嫌い、それら誤謬(ごびゅう)の訂正やカトリック批判を織り交ぜたものとなっている。デイドロとダランベールによる『百科全書』が出版されるまで、18世紀前半のヨーロッパの知的源泉として利用された。

Bayle, Pierre. *Dictionnaire historique et critique*. Rotterdam: Chez Reinier Leers, 1697.

5 ハリス『技術事典、あるいは万有英語学芸および科学辞典』全2巻

ロンドン 1704-1710年

ハリスは、イギリスの作家、科学者、聖職者。ハリスは言葉を調べるための辞書と事柄を調べる事典とを区別した最初の事典編纂者であったとされる。本書の最大の特徴は、英語で記された最初のアルファベット順の百科事典という点である。神学やラテン語等の教養を除外し、物理学や解剖学、船舶や航海学などの科学、または法律等の学問を重視して編纂された。完成までには多くの学者が協力しており、物理学者ニュートンや博物学者ジョン・レイらが名を連ねている。

Harris, John. *Lexicon technicum : or, an universal English dictionary of arts and sciences explaining not only the terms of art, but the arts themselves*. London: Dan. Brown [et al.], 1704-1710.

6 チェンバーズ『百科事典』全2巻 ロンドン 1728年

チェンバーズは、18世紀イギリスの百科事典編纂者。ハリスの『技術事典』をベースに人文関連の項目を加えた百科事典の構想を固め、自ら執筆したものや学者に依頼をした記述を項目別にまとめ、この百科事典を完成させた。本書での最大の功績は、初めて相互参照を導入した点である。図版や系統図を利用した万物にわたる解説と、参照による実用性の高さから、本書は現代百科事典の始祖と称される。

Chambers, Ephraim. *Cyclopædia: or, an universal dictionary of arts and sciences*. London: Printed for James & John Knapton ... [et al.], 1728.

7 デイドロ/ダランベール『百科全書』全35巻 パリ 1751-1780年

18世紀フランスにおける啓蒙思想の集大成といえる百科事典で、フランス革命に向かう国民の意思形成に大きな影響を与えたとされている。初期の構想は、チェンバーズ『百科事典』の翻訳だったが、最終的にはフランス人によるオリジナルの百科事典として刊行された。執筆者には、モンテスキュー、ヴォルテール、ルソーなど、のちに百科全書派と称される各分野の革命的代表人物が顔をそろえ、各巻が出版されるたびに多くの知識人の支持を得た。

Diderot, Denis / Alembert, Jean Le Rond d'. *Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, par une société de gens de lettres*. Paris: Chez Briasson, 1751-1780.

8 サヴァリ・デ・ブリュロン『商業総合事典』新版 全3巻 パリ 1741年

ヨーロッパ初の国内外の交易および商工業に関する専門事典で、18世紀の間ヨーロッパ各地で翻訳された。展示品は、1741年パリで刊行されたもので、『百科全書』の「商業」の多くの項目に参照された版であると推測される。本書の刊行を契機に、ルドヴィッチ『商業辞典』、ポッスルウェイト『商工業大事典』等が編纂された。

Savary des Brûlons, Jacques. *Dictionnaire universel de commerce : contenant tout ce qui concerne le commerce qui se fait dans les quatre parties du monde, par terre, par mer, de proche en proche, & par des voyages de long cours, tant en gros qu'en d'etail... Nouv. éd.* Paris: La veuve Estienne, 1741.

9 ポッスルスウェイト 『商工業大辞典』 第4版 全2巻 ロンドン 1774年

ポッスルスウェイトは、18世紀イギリスの経済学者、政治評論家。本書は、サヴァリ・デ・ブリュロン『商業総合事典』を英訳し、大規模な増補改定を加えたもの。イギリスで刊行された商業史辞典としては最も古い。初版は第1巻が1751年に、第2巻が1755年に刊行され、人気を博した。展示品は、最終版である第4版。

Postlethwayt, Malachy. *The universal dictionary of trade and commerce : with large additions and improvements, adapting the same to the present state of British affairs in America, since the last treaty of peace made in the year 1763... 4th ed.* London: W. Strahan [et al.], 1774.

10 ショメル/シャルモ蘭訳 『家政事典』 全16巻 ライデン 1778-1793年

ショメルは、フランスの著述家、司祭、農学者。『家政事典』の原語版(1709年)は、日々の生活に役立つ事柄を収録した事典で、天文、地理、物理、医学、釣り、ハンティング等、多岐に渡った内容が収録されている。一方、シャルモが訳したものは、オランダに関する項目を加えるなど単なる翻訳に留まらない大幅な変更を伴って、1768-1777年に出版された。さらにその後、著しい増補・改訂がなされて刊行されたのが本書である。

Chomel, Noël / Chalmot, J. A. de. *Algemeen huishoudelijk-, natuur-, zedekundig- en kunst-woordenboek, vervattende veele middelen om zijn goed te vermeerderen, en zijne gezondheid te behouden.* Leyden: Joh. le Mair, 1778-1793.

11 江少虞撰 『皇朝事宝類苑』 元和勅版 78巻目録1巻15冊

古活字本 元和7(1621)年刊

『皇朝事宝類苑』は、中国、南宋紹興15(1145)年に江少虞(こうしょうぐ)によって編集された百科事典で、別名『皇朝類苑』、『皇宋事宝類苑』。四字の見出し語28門に分けて、中国宋代の史実・逸話など千余項を諸文献から集めたもので、各項ごとに出典の注記がある。展示品は、元和7(1621)年に後水尾天皇が福建麻沙鎮刊本に基づき、印行したもの。

12 寺島良安 『倭漢三才圖會』 105巻巻首1巻巻尾1巻 大坂 正徳5[1715]年跋

寺島良安は、元禄から享保期にかけて活躍した大坂の医師。『和漢三才図会』は、「天地人を知って医術は生かせる」という師和気仲安(わけちゅうあん)の教えに従って記録したもので、明の王圻(おうき)編の『三才図会』の体裁に合わせ、天・人・地の三才の大部に分類されている。各項目は、図入りで、漢・和の名称を示し、平易な漢文で説明した百科事典である。明治時代に至るまで長く実用され、幕末には、説明文を平仮名交じりに改めた『増補和漢三才図会大全』(天保元(1830)年)という写本も作られた。

13 榊原芳野編 『文藝類纂』 8巻 [東京] 明治11[1878]年

榊原芳野は、国学者。本書は、広義の文学史で、内容は、字志(国語学史)・文志(文章史)・学史(学制・学問分野大系)・文具志(文房具・版本・製本についての沿革と製法)にわかれ、狩野良信、北爪有郷模写の挿図がある。明治期の西洋文明の移入に対して、日本固有文化の認識を深めるため編まれた。文部省より出版され、原本として作られた2部には、色彩が施されている。

➤ 壁掛け展+示示植物図鑑の見本帳

14 ニッセン 『本草書の5世紀』 チューリッヒ 1956年

本草書研究の第一人者ニッセンによって編纂された1484年より1863年までに出版された50冊の代表的植物図鑑のオリジナル零葉集。インキュナブラが13葉あり、50葉中25葉は手彩色が加えられている。内容とともに、版画史、印刷史的にも資料的価値が高い。

Kräuterbücher aus fünf Jahrhunderten. 50 Originalblätter. Zürich: L'Art Ancien, 1956

➤ 図譜

15 ゲスナー 『動物誌』 全5巻 チューリッヒ 1551-1587年

ゲスナーは、スイスの医師、博物学者、言語学者。本書は、16世紀までに観察され記述された動植物に関する著作を集大成するという構想に基づき刊行された。本文は約3,500ページで1,045点の木版画を収録し、デューラーの作品を模したインドサイの挿図は特に有名である。著者がラテン語でつけた鳥や動物の名称は、後にリンネに引き継がれて、現代動物学の学名に受け継がれているものが多くある。

Gesner, Conrad. *Historiae Animalium.* Tiguri: Christ.Froschoverum, 1551-1587.

16 ヴェサリウス 『人体の構造について』 バーゼル 1543年

ヴェサリウスは、ベルギーの外科医で、現代人体解剖の創始者といわれている。本書は、自然科学におけるルネサンス最盛期に刊行され、医学の発展にはかりしれない貢献をなした。人体の構造については、古代ギリシアの医学者ガレノスの学説が千年以上も権威を保っていたが、ヴェザリウス自らが人体解剖を行い、実証することによってガレノスの幾多の誤りを修正した。画家のカルカールとヴェザリウス本人による精細な図版で構成されている。

Vesalius, Andreas. *Andreae Vesalii Brvxellensis, scholae medicorum Patauinae professoris, de humani corporis fabrica libri septem.* Basie: Johannes Oporinus, 1543.

17 鈴木牧之撰 京水白鶴画 京山人百樹刪定 『北越雪譜』

初編3巻 天保7(1836)年 2編4巻 天保13(1842)年

鈴木牧之(すずきぼくし)は、江戸後期の随筆家。本書は、著者の故郷、越後塩沢の雪にまつわる風俗・習慣・伝説・言語・産業等について書き記したもの。初編巻之上では、冒頭部分で雪の生成過程について分析し、顕微鏡で雪の結晶を観察・記録した図(『雪華図説』からの引用)が掲載されている。その他、吹雪・雪崩・洪水などの自然現象、神事や風物詩、雪の中で使う道具などの挿絵も多く含まれる。

18 フラムスティード 『天球図譜』 第2版 パリ 1776年

フラムスティードは、イギリスの天文学者で初代王室天文官兼グリニッジ天文台長。本書は、著者の同天文台での約40年にわたる観測に基づく精密な恒星目録である。のちに航海歴表に採用されて天文航法の発達に貢献し、以後の精密恒星目録の模範となった。本書に付加した『恒星表』で採用された恒星命名法(バイヤー記号およびフラムスティード数字)は現在も用いられている。

Flamstéed, John. *Atlas céleste de Flamstéed, approuve par l'Académie Royale des sciences, et publié sous le privilege de cette compagnie.* 2. éd. Paris: F.G.Deschamps, 1776.

19 クルムス『解剖図録』 仏版初版 アムステルダム 1734年

身体の各部の名称について28枚の図表を用い解説した医学書。初版は1722年に出版され、ドイツ国内で版が重ねられ、フランス語、オランダ語、ラテン語などへの翻訳も進められた。日本では1774(安永3)年、杉田玄白や前野良沢らが、蘭訳本である通称「ターヘル・アナトミア」を底本として『解体新書』を出版し、わが国の近代医学の発展に大きく貢献した。展示品は、1734年に出版されたフランス語訳の初版。

Kulmus, Johann Adam. *Tables anatomiques : dans lesquelles on explique en peu de mots la structure & l'usage du corps humain, et de toutes ses parties: avec des remarques & des figures.* Amsterdam: Jonssons à Waesberge, 1734.

20 ヨンストン『動物図譜』 アムステルダム 1660年

ヨンストンは、ポーランド出身の医学者、博物学者。本書は、わが国に持ち渡られた最初の蘭書。展示品は、ヨンストンのラテン語版をグラシウスがオランダ語訳したものであり、挿絵は銅版画家のメリアンによる。日本では、徳川吉宗の命を受けた医師の野呂元丈が、本書を通詞に翻訳させ、『阿蘭陀禽獣蟲魚図和解(おらんだきんじゅうちゅうぎよずわけ)』(寛保元(1741)年)を完成させた。

Jonstons, Johannes. *Jonstons Naeukeurige Beschryving Van de Natuur der Vier-Voetige Dieren, vissen en Bloedlooze Water-Dieren, Vogelen, Kronkel-Dieren, Slangen en Draken.* Amsterdam: I. I. Schipper, 1660.

21 森島中良編 『紅毛雑話』 5巻5冊 天明7(1787)年

森島中良(もりしまちゅうりょう)は、江戸時代後期の蘭学者。『紅毛雑話』とはオランダ人に聞いた話、オランダの書に記してあった話という意味。オランダの歴史や風俗、諸外国の地理的事情、西欧から日本への海路および通過する国々の事情、オランダの画法についての記述などがある。中の挿絵には、オランダの博物学者ヨンストンの著した『動物図譜』の中のライオン図などを書き写したのものもある。

22 木邨孔恭『一角纂考』 寛政7(1795)年

木邨孔恭(きむらこうきょう)は、江戸中期の大坂の文人、文人画家、本草学者、蔵書家。兼葭堂の名でも知られている。本書は、イッカクジラの専門書。著者は科学的で詳細なヨーロッパの北極捕鯨誌から、情報を得て著述した。日本には江戸時代にオランダ商人を通じて、イッカクの牙がもたらされた。当時の百科事典である『和漢三才図会』にもイッカクが紹介されている。本書には、イッカクの生態や、2本の牙を持つ珍しいイッカクの紹介と共に、ユニコーンなどの西洋の伝説も記述されている。

23 ドドネウス『植物誌』 アントワープ 1616年

ドドネウスは、フランドルの医師、植物学者。豊富な植物図とその性質効用についての詳細な説明からなる本書は、西洋博物学の知識を得る重要な書であった。日本においては、寛保から寛延年間にかけて医師の野呂元丈によって蘭訳本から『阿蘭陀本草和解』(おらんだほんぞうわけ)に翻訳された。

Dodonaeus, Rembertus. *Stirpium Historiae Pemptades Sex sive Libri XXX. Varie ab Avctore, paullo ante mortem, aucti & emendati.* Antverpia: Officina Plantiniana, 1616.

24 ケンペル 『日本植物図譜』 ロンドン 1791年

ケンペルは、ドイツ北部レムゴー出身の医師、博物学者。東洋に関心を持ち、オランダ東インド会社の医師として1690(元禄3)年9月に来日。本書は、日本滞在中の2年間で描写した計250枚以上に及ぶ植物図の中の59枚が、イギリスの著名な博物学者バンクスの手によって編集されたものである。

Kaempfer, Engelbrecht. *Icones selectæ plantarum, quas in Japonia collegit et delineavit Engelbertus Kæmpfer; ex archetypis in Museo Britannico asservatis.* Londini: [s. n.], 1791.

25 ツェンベリヤー 『日本植物図譜』 ウプサラ 1794-1805年

ツェンベリヤーは、スウェーデンの植物学者、医学者。出島オランダ商館付医師として1775(安永4)年8月に来日した。帰国後、長崎・江戸・箱根を中心に精力的に収集した日本国内の植物標本を整理して刊行したのが、『日本植物誌』と本書である。

Thunberg, Carl Peter. *Icones Plantarum japonicarum, quas in insulis japonicis annis 1775 et 1776 collegit et descripsit....* Upsaliae: J.F.Edman, 1794-1805.

➤ 辞典

26 『普遍辞典』 新版 全7巻 パリ 1743-1752年

フランスのイエズス会宣教師によって編纂された辞典で、初版(1704年)が刊行された地になんで通称『トレヴー辞典』と呼ばれる。専門用語と百科全書的情報を追加して増補改訂を繰り返す、フランス語辞典から百科事典へとその性格を変えていった。本書は、第4版にあたり、1752年刊行の補巻を加え7巻から成る。

Dictionnaire universel françois et latin. Nouvelle édition corrigée et considérablement augmentée. A Paris: Chez la Veuve Delaune, La Veuve Ganeau, rue S. Jacques [et al.], 1743-1752.

27 フローリオ 『アン王妃の言葉の世界』 ロンドン 1611年

フローリオは、16世紀から17世紀のイギリスのイタリア系の言語学者、翻訳者。モンテーニュの『エッセー』(1580年)を初めて英訳したことで知られる。本書は、伊英辞典『言葉の世界』(1598年)の増補版。『言葉の世界』は、同時代作家の語彙や多彩な地方語を収録した革新的な辞典で、百科事典のように多岐にわたる主題を扱い、それぞれの単語に対し多くの英語類義語を示した。17世紀を通して標準的な辞書として改版を重ねた。

Florio, John. *Queen Anna's new world of words, or Dictionarie of the Italian and English tongues.* London: Printed by Melch. Bradwood, for Edw. Blount and William Barret, 1611.

28 ジョンソン 『英語辞典』 全2巻 ロンドン 1755年

ジョンソンは、詩・小説・演劇・ジャーナリズムの各分野で活躍した18世紀イギリスを代表する文筆家で、辞書編集者としても名を残した。本書は、1755年に完成させた2,300ページを超える大著。ベーコンやミルトン、シェイクスピアなど著名な作家の作品から広範でかつ適切な例文を11万以上引用した本書は、イギリスにおいて初めての本格的な英語の辞典となった。さらに、18世紀前半の英語純正運動の時代風潮に合い、大変好評を博した。

Johnson, Samuel. *A dictionary of the English language : in which the words are deduced from their originals, and illustrated in their different significations by examples from the best writers. to which are prefixed, a history of the language, and an English grammar.* London: Printed by W. Strahan for J. and P. Knapton ..., 1755.

29 ウェブスター 『アメリカ英語辞典』 全2巻 ニューヨーク 1828年

ウェブスターは、アメリカの教科書執筆者、辞書編纂者、教育者。本書は、27年かけて編纂した7万に及ぶ見出し語を収めた辞書。愛国的立場からアメリカ特有の単語、新語義や用法の採録に力を注ぎ、その後のアメリカにおける綴字法や辞書編集に与えた影響は大きい。
Webster, Noah. *An American dictionary of the English language : ... to which are prefixed, an introductory dissertation on the origin, history and connection of the languages of Western Asia and of Europe, and a concise grammar of the English language*. New York: S. Converse, 1828.

30 コリヤード 『羅西日辞典』 ローマ 1632年

コリヤードは、17世紀スペインのドミニコ会宣教師。本書は、ラテン語・スペイン語・日本語の対訳辞書。正編、補遺、続編から成る。アルファベット順の配列で、ラテン語の見出しにスペイン語と日本語の訳が付けられており、日本語に発音のアクセントを表記している点に特徴がある。

Collado, Diego. *Dictionarium siue Thesauri linguæ Japonicæ compendium*. Romæ: Typis & impensis Sacr. Congr. de Prop. Fide, 1632.

31 メドハースト 『英和・和英語彙』 バタビア 1830年

メドハーストは、19世紀イギリスの宣教師。本書は、イギリス人によって編纂された最初の日本語と英語の対訳単語集で、英和と和英から成る。序文で、編者は日本に滞在したことも日本人と話したこともなく、日本の書物、特に日中両文字を併用した書物を参照して編集したことが述べられている。

Medhurst, Walter Henry. *An English and Japanese and Japanese and English vocabulary compiled from native works*. Batavia: [s.n.], 1830.

32 ヘボン 『和英語林集成』 横浜 1867年

ヘボンは、医学博士号を持つ北アメリカの宣教師。幕末に来日し、横浜で診療所を設け医療活動を行った。本書は、日本最初の英語で書かれた日本語辞典(和英辞典)。直接ヘボンが出逢った人々の言葉が記録され、幕末の日本語を良く集めている。

Hepburn, James Curti. *A Japanese and English dictionary; with an English and Japanese index*. Shanghai: American Presbyterian Mission Press, 1867.

33 ホフマン 『日蘭辞典』 ライデン 1881-1892年

ホフマンは、ヨーロッパの日本研究の基礎を築いたドイツの「日本学」の第一人者。晩年、日本語辞書『日蘭辞典』と『日英辞典』を手がけるが、未完のまま没した。ホフマンの死後、両辞典とも1881年にわずか三分冊が刊行されただけで、その後続刊されることはなかった。展示品は、『日蘭辞典』の三分冊を合冊したもの。

Hoffmann, Johann Joseph. *Japansch-Nederlandsch woordenboek van wijlen J.J. Hoffmann ; op last van den Minister van Koloniën bewerkt en uitgegeven door L. Serrurier. Deel I-III*. Leiden: E.J. Brill, 1881-1892.

➤ 字典

34 陰時夫輯 陰中夫注 『韻府羣玉』 全20卷10冊

五山版 南北朝(1336-1392)半ば頃

『韻府羣玉』(いんぷぐんぎょく)は、文字を四声106韻に分け、韻字ごとに典拠となる故事を分類、配列して類書(百科事典)の機能を兼ね備えた韻書で、宋末元初の陰時夫(いんじふ)と兄の中夫(ちゅうふ)によって編纂された。日本では、南北朝時代に盛んに出版されている。

35 陳彭年ほか奉勅撰 『広韻』 5巻5冊 宋 大中祥符元(1008)年

中国、北宋の真宗帝(在位997-1022)の勅命により、陳彭年(ちんほうねん)、丘雍(きゅうよう)らが編纂した韻文を作るための字典。大中祥符元(1008)年完成。正式には『大宋重修廣韻』という。隋代の韻書『切韻』、唐代の韻書『唐韻』の音系と反切を継承し、六朝から唐代の漢字音を知るうえできわめて重要なものとされる。

36 黄公紹編輯 熊忠挙要 『古今韻會舉要』 全30巻15冊 江戸初期頃

『古今韻會舉要』(ここんいんかいきょよう)は、元の黄公紹(こうこうしょう)の撰した韻書『古今韻會』が余りに膨大な量であるため、熊忠(ゆうちゅう)が重要な項目をまとめたダイジェスト版である。『古今韻會』が早くに散逸したため、「古今韻会」、「韻会」とはこの『舉要』を指す。当時の口語音の状態を反映した貴重な音韻資料。展示品は、江戸初期に刊行されたと推定されている和刻本である。

37 文雄撰 『磨光韻鏡字庫』 2冊 浪華 天明8(1788)年

文雄(もんのおう)は、音韻・天文の学に通じた江戸中期の浄土宗の僧で、ぶんゆう、もんおうともいう。隋唐時代の漢語の発音を一覧表にした43図からなる韻図『韻鏡』の構成原理を校訂図示し、使用法と音韻一般を解説した研究書『磨光韻鏡』(延享元(1744)年)は、『韻鏡』研究史上第一に挙げるべき名著とされる。本書は、韻書『古今韻會舉要』をもとに、『韻鏡』にあわせて検索を容易にした書で、文雄の没後に刊行された。

38 梅膺祚音釈 『字彙』 12巻首尾各1巻 京都 江戸期刊

中国、明の梅膺祚(ばいようそ)によって万暦43(1615)年に編纂された漢字字典。本書の出現によって字書による漢字の検索は以前に比べて極めて容易になった。この方式はその後、『正字通』、『康熙字典』に受け継がれ、現在の日本の漢和辞典の大半はこの方式を元にして漢字を配列している。

39 張玉書ほか奉勅撰 『康熙字典』 全42巻38冊 康熙55(1716)年刊

『康熙字典』(こうきじてん)は、清の康熙帝(在位1661-1722)の勅命により編纂された漢字字典。47,000余字を楷書の部首別、画数順に配列し、字音・字義・用例を示し、以後の字書の範となるとともに、漢和辞典における漢字配列の規準となった。

40 江山関根為宝集 『仮字類纂』 天保12(1841)年

江山関根為宝(こうざんせきねいほう)は、幕末の書家。『仮字類纂』は、いろは順に古今名筆の筆跡を字形に基づいて配列したもの。見出しの字母の下には記紀・万葉に見えるあらゆる真仮名を注記している。空海、菅原道真、紀貫之、西行らの筆跡を含む。書道の手本書であり、仮名字体の研究書でもある。展示品の題簽名は、『仮名類纂』。